



留まっている

進まないのではなく、
進むという構造が、もう合っていない。

そこから動く理由が、
すでに置かれていない。

それは、諦めてはない。
逃避でも、停滞でもない。

動けないのではなく、
動こうとする前提が、残っていない。

期待が折れたわけでも、
意味を見失ったわけでもない。

ただ、
次の位置へ行く理由が、
置かれなくなっている。

一致しない状態は、
やがて整えられなくなる。

整えても、動かない。
足しても、重ならない。

どこかを変えれば進める、
という前提だけが、先に崩れる。

進むか、戻るか、
その二択が、もう働かない。

位置が合わないなら、
合わないまま、立つしかない。

そのまま、離れない。

留まっている場所では、
期待と判断が同時に消える。

良いとも、悪いとも言えない。
意味があるとも、ないとも言えない。

ただ、そこに在る。

何も起きていないようできて、
何も誤魔化されていない。

感動も、違和感も、
同じ速度で通過していく。

動いていないのではない。

もう、急ぐ理由が残っていない。



Edition — 存在の芯
別景：留まっている

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026